

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年12月15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103839
法人名	社会福祉法人 中江報徳園
事業所名	グループホーム サンひまわり
所在地	鹿児島市下伊敷1丁目44番11号 (電話) 099-218-2045
自己評価作成日	平成28年11月18日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成28年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・『知恩報徳』を理念に掲げ、職員一同お客様が明るく豊かな生活が送れるように、その恩に感謝し社会への貢献を目指しています。

・サンひまわりは下伊敷1丁目の国道3号線近くで、交通の便もよく利用しやすい場所に開設されています。近隣には玉江小学校や県立短大もあり静かな地域に立地し、住環境に適しています。

・又、栄門公民館や玉江校区の行事にも積極的に参加し、お客様と地域住民との交流が図られています。

・常勤の看護師を配置し24時間の医療連携体制をとっており、日常の健康管理においても安心して施設生活を送って頂けます。

・職員は法人内での勉強会、外部の研修にも積極的に参加し、認知症ケアのみならず様々な分野の知識を深め、サービスの質の向上を目指しています。

・法人内の管理栄養士や理学療法士などの専門職とも連携し、栄養バランスのとれた季節の食材を活かした食事の提供、生活動作機能の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

交通量の多い国道から一つ筋に入り、周りは小学校や短期大学、また商業施設や病院もあり、賑やかな利便性の良い環境にある。

町内会との交流は深く、おはら祭りに職員は町内から踊り連として参加している。互いの行事にも参加し合いその関係性は密である。

職員の資格取得や外部研修、内部研修にも力を入れ、ホームでは利用者を「お客様」と思い、その満足度向上のため精一杯サービス支援に努めている。

職員は看取りに関しては、人の死に対する怖さが始めはあったが、「最期の時に寄り添えた安心して送られた」と思える経験をケアに活かしている。医療連携も確保されており安心して過ごせる環境である。

外出の機会も多く行事以外でも、日常的にはホーム周辺の散歩やドライブ、家族の協力で外出や外食また外泊など、戸外へ出かける事を支援している。

管理者や職員は理念の下、利用者の為「お客様」の為に更なるサービスの質の向上を目指している。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I . 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所内に掲示し、職員がいつも目に出来るようにしている。職員全体会では、理念について思いを述べる機会を設けられている。	開設時に職員全員で決めた理念である。見直しはないが職員からは、年間の目標を決め職員会議や勉強会で反省やテーマに沿った意見をもらっている。朝礼時には気づきがあれば話し検討している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	六月灯、おはら祭り、文化祭など校区町内会の行事に参加し、交流している。	町内会に加入し、地域の行事への参加やおはら祭りへは町内会からの踊り連に職員が一緒に参加している。防災訓練にも参加をもらい、また広報でAEDを設置している事も伝えている。地域とは日常的に繋がりのある交流をしている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の民生委員、町内会役員と連携し、困りごとの共有、問題解決に取り組んでいる。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、運営推進会議を開き。事業所の現状報告、意見交換などを行っている。	2か月毎の会議は定例化しているが議題には事欠くこともなく参加者からの意見交換や報告など中身のある会議となっている。出された意見はサービス向上に活かされている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の長寿支援課、介護福祉課による会議や研修等に積極的に参加し協力関係を作っている。	日頃から申請に関しての相談や研修案内をもらって参加したり、運営推進会議への参加で意見をもらったりと協力関係は築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止に関する勉強、研修を行い職員の意識向上に取り組んでいる。玄関は日中開錠している。お客様が一人で外に出る危険性の回避には体感センサーを用いている。	法人での定期的な研修会へも参加し、また職員会議では研修報告をして情報の共有をしている。玄関は施錠せず、全部の家族から同意を得てセンサーを設置して自由で安全な出入りで見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修を受け、職員同士注意しながら防止している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修会や勉強会に参加し、学びの継続を行っている。入所のお客様には個々に必要な事を検討、提案している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者が内容の説明を行い、納得し同意を得た上で署名を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際に必ず声かけし、お気づきの点がないか確認している。玄関に意見箱を設置し、毎年無記名のアンケートを実施し言いにくいご意見も頂けるようにしている。	家族の面会時や日常でも利用者から意見要望が聞けるようにしている。年1回の家族会前のアンケート実施や、家族会で出された意見は職員間で話し合い運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開き、職員の意見や提案を発表する場を設けている。その内容については皆で検討し運営に反映させている。	職員会議等で意見要望を聞く機会を作りまた個人面談の中で提案や要望を聞いている。職員の資格取得にも積極的であり質の向上にも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、毎月の会議等でコミュニケーションを図っている。職員は個人目標管理票を作成。各自目標に向けて年間計画を立てて取り組み、そのフォローアップに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年度初めに、内部外部の年間研修計画を作成し、随時案内、参加を促すとともに、分科会、カンファレンス等も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会にも参加し、研修や相互活動の中で情報交換している。また、協力病院と合同で勉強会を行う等、多岐に渡り質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでの生活環境や経緯を本人や家族から聴き、施設で生活するに当たり要望などを伺い信頼関係を作るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族と面談し、施設での生活や対応の説明を行い、家族の要望や意見を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お客様や家族、医療機関や入所前のケアマネージャー等から情報収集を行い、カンファレンス等を開催して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様の経験や趣味を生かし、日常生活の中で役割を持って頂くことでお互いを支えあっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月「ひまわり便り」でご家族にお客様の近況報告をしている。家族希望時に、一緒に外出。ふれあいの時間が持てるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会時にはゆっくり談話できるように環境を整えている。又、個別にふるさと訪問や、馴染みの場所への外出を行っている。	馴染みの美容室へは家族と共に行き、また友人知人や入所前の民生委員の訪問もある。家族の支援が多く外泊もある。ふるさと訪問では個別で墓参りや食べたいものがあれば馴染みの場所へ外出し、思いや関係が途切れない様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性や能力を尊重し、レクリエーション、日常生活、行事を通しお客様同士コミュニケーションが取れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後にお客様やそのご家族に連絡を取ったり、入所入院先の担当者に情報提供を行い、経過をフォローしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、希望や意向が無いか観察し、留意している。困難な場合は、家族、他職種からの情報、お客様の行動や表情から把握できるよう努めている。	日常の会話や表情から思いや意向を把握している。意思疎通が困難な利用者からは家族や民生委員からも情報を得ながら職員間で話し合い把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談で、お客様本人、家族、ケアマネージャー等より伺っている。入所後も家族面会時にお尋ねし、情報共有、経過把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズム、心身状態、出来ること等把握し、無理せず生活できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お客様本人、家族より要望、意向を聴き、心身状態を把握したうえで、職員、専門職の意見も伺いながらカンファレンスを行い、介護計画を作成している。	利用者・家族の要望、職員の意見を反映した介護計画を作成している。主治医や利用者・家族・職員で話し合い家族支援も考慮された内容となっている。カンファレンスを行い3ヶ月評価であるが変化があれば都度見直しを行い現状に即した計画作成をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録用紙に記入し、職員間での情報共有、経過観察をしている。気づきや、実践の結果を介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や、本人の必要なものの買い物支援など、ご家族と連携しながらその時に応じて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を持ちながら、公民館活動や行事に参加し、安心して生活できるように消防署、民生委員とともに連携を取っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お客様本人、家族の希望される医療を受けられるようにかかりつけ医と連携し、支援している。	利用者・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。往診の方が多い現状であるが、必要に応じて家族との受診や職員同行もある。協力医療機関との協力体制はできている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、お客様の健康状態に対応できる体制ができている。お客様の情報は常に共有し、急変時はすぐに医師に報告し指示を受けられるように、連携を図り協働で来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、看護師が情報提供を連携を図っている。入院中の状態把握に努め、早期退院できるように主治医、担当看護師、相談員と情報交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の契約時、看取りに関する方針を定め、説明している。終末期には、お客様本人、家族、医師、看護師、管理者、介護職員を交え話し合い、定期的にカンファレンスを行い支援している。	重度化や終末期に向けたホームの指針を作成し入所時に説明し同意書も取り交わしている。状況に伴い主治医・家族と方向性を共有してホームで出来る最大限の支援に取り組んでいる。職員の夜勤時の不安を取り除く勉強会も行っている。医師・看護師・家族・職員がチームとなり支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普段から、お客様の急変時に備え、マニュアルに沿って勉強会を実施し対応ができるように努めている。毎年、救命救急法の研修を行い職員が参加している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回防災訓練を実施し、気づきや反省を検討している。年間計画には地震や、風水害に対する訓練も組み込み、地域の防災担当者とも連携を取っている。	年2回の消防訓練の他に毎月自主訓練も行っている。商業施設の中に位置して居る為避難訓練への参加はないが、町内会の協力体制は取られていて町内の防災担当が参加している。火災だけでなく水害想定避難準備もある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎朝、接遇目標を声に出して読み上げ、意識を高め対応している。プライバシーの保護やゆっくり丁寧な言葉遣いに心がけている。	利用者の人格や尊厳を重んじ、羞恥心への配慮・名前の呼び方など日常的に意識しながら対応している。法人研修や外部研修にも参加し質の向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の場面で、お客様のペースに合わせ、希望やご意見を伺うように配慮し支援している。意思伝達が困難なお客様には、表情などから思いを受けられるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様のペースに合わせて、対応している。散歩や、趣味活動、休息等は本人の希望を伺って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	衣類の選択は、基本的にお客様本人の意思決定で支援している。毎朝の整容にも配慮し、出来ない方は職員が付き添い、身だしなみを整えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせて、調理や盛り付け、配膳、片づけを手伝って頂いている。包丁等の刃物を使うときは、見守りながら安全に配慮している。	個々の嚥下や咀嚼に合わせて、ミキサーや刻み食で提供している。食事が負担にならない様に配慮している。出来る方には配膳・テーブル拭き、下ごしらえの手伝いも職員の見守りの中行っている。ホームの菜園での収穫も食材になっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成した、バランスの取れた献立をもとに食事を提供している。医師や栄養士と連携し、状態に合わせた食事提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、歯磨き支援、口腔ケアを行い口腔内の状態を確認している。必要に応じて歯科受診、往診も行っており、口腔ケアの指導も頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お客様一人一人の排泄パターンや能力を把握し、定時でトイレ案内したり、トイレへ行けるように立ち上がり訓練を行い、トイレでの排泄に向けた支援を行っている。	利用者の生活リズムや排泄パターンを把握しており、さりげない誘導でトイレでの排泄の自立支援を行っている。日中はトイレでの排泄に向けた支援を行い家族の経費軽減にも繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便確認を行い、水分量食事量のチェックと共に状態観察を行っている。主治医指示での下剤服用と併せて、体操や腹部マッサージ等でスムーズな排便が出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	大まかな入浴時間をきめて、その中でそれぞれのタイミングに合わせて個別に入浴している。入浴を嫌がられた時は時間を空けて再度声かけしたり、無理強いせずに清拭などで保清している。	家庭的な個浴であり、基本的には週3回の入浴だが利用者の希望に合わせている。清拭や足浴になることもある、温泉好きな方は家族の協力を得て支援している。入浴時の職員との会話はコミュニケーションの場ともなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれのお客様が、眠くなるまでホールや、廊下のソファ等で過ごしお客様本人の生活リズムに合わせて就寝援助している。睡眠時の居室の照明、温度などの環境も個々に合わせて配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬のファイルを作り、それぞれの薬の内容やその目的を確認している。服薬時も再度、本人確認、薬内容の確認を行い、お客様の状態に合わせて介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やレクリエーションの他、家事や役割など、手続き行為や体で覚えている得意な事を引き出し、それを楽しみながら行えるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	そうめん流しや、コスモス見学等の外出の他、希望を伺いながら気分転換に近くの公園や買い物に出かけている。又、定期的に家族と外出、食事に出かけて楽しまれている。	年間計画の外出の他、日常的にはホーム周辺の散歩やスーパーでの買い物をしている。外出を拒まれる方にも個々に応じて声掛けをして出かけている。家族の協力やふるさと訪問など、戸外に出る支援をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の財布を持っていて、職員と一緒に希望時に買い物に出かけている。品物を選んだり、支払いするとき職員は見守りや一部支援し、家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	お客様希望時に、家族へ電話をかけ話をしたりしている。耳の不自由な方は、職員が間に入って取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓に努め、玄関や食堂にはお客様が生けられた季節の花や、季節を感じるような展示作品を飾って落ち着いて過ごせるように工夫している。	町内の文化祭に掲示された手作りの作品が壁に飾られ、行事の写真や書道作品など掲示されている。園周りに菜園やプランターの花で季節を感じられる。ホームには近隣の小学校の子供達の声も聞こえ生活感を得られる環境である。リビングやトイレは整理整頓され清潔感がある共有空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの中に、2か所のソファを設置し、一人で過ごしたり気の合う他のお客様と過ごせるような空間づくりをしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、箆箆は施設の備品であるが、それぞれに自宅で使い慣れたもの、思い出の品の持ち込みがある。生活スタイルに合わせた居室づくりをしている。	ホームの設置品以外は、自宅で利用者の思い出深い品々を持ち込み、個別性を感じる居室になっている。身体状況に合わせた環境整備もしながら居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室から、食堂、トイレは解りやすい動線となっている。又、自分で行きたい場所が解るように張り紙などで、場所を知らせている。状態変化時は、その都度生活しやすい環境作りをしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない